

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・イベントを実施するにあたり、拠点で行うことの必要性や目的について、区と一緒に考えながら協力して実施していく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

・H30年度乳幼児健診アンケート(区実施)

拠点の認知度:90% ⇒認知している方の利用率:54%

はっちではほっとしたり安心して過ごせますか?⇒そう思う54% 思わない5%

・利用実績

	利用組数(組)		利用人数 (人/年)	利用者 親等 内訳 (人/年)							新規登録者(人/年)	
	年間	1日平均		父	母	祖父	祖母	プレパパ	プレママ	その他	総数	プレパパ・ママ
H28年度	13064	54.4	26053	728	11811	22	109	48	106	240	919	46
H29年度	11627	48.9	23839	585	10553	23	105	83	123	205	801	79
H30年度	11146	46.6	23455	591	10111	11	89	64	119	161	858	60

1. 利用者を温かく迎え入れる雰囲気づくり

- ・利用者を笑顔で迎え入れ、利用者の立場に立った適切な対応と言葉かけをするように心掛けた。
- ・お手伝いが必要とスタッフが感じた場合(多胎児や兄弟児など)には、利用者へ声かけをしサポートをした。状況に応じてスタッフ配置を工夫した。
- ・単独での来館に不安を感じる初利用者などが安心して来館できる工夫として、「はじめてさんの日」を開催した。
- ・上記イベントを行ったことで、継続利用につながった。(H30年度:新規登録者の16%(140人)が参加。参加後、82%(115人)の方が継続利用)
- ・毎日の反省会やスタッフ定例会で利用者への対応について共有、確認を行った。利用者への対応が統一でき、スタッフのスキルアップにつながった。

2. 幅広い利用者受け入れのための工夫

- ・来館のきっかけや仲間作りにつながるように、テーマを決めて話せる場や交流できる企画を行った。テーマ別のイベントを実施することで、普段は交流のない利用者同士も熱心に情報交換し、仲間作りのきっかけとなった。
- ・父親も参加しやすく、家族で参加できる企画を行い、父親同士の交流の場となった。父と子のみでの来館する姿も多くみられるようになった。
- ・プレママ・プレパパを対象とする企画など、妊娠期より拠点を利用するきっかけを作り、出産後も継続的な利用につながるようイベントの内容を工夫した。

3. 利用者のニーズの把握

- ・利用者との日々の会話や相談からニーズや意見を把握し、ひろばの環境整備、事業や講座等に活かしている。
- ・初利用者には退館時に簡単なアンケートを実施し、居場所の雰囲気やスタッフの対応などを確認した。自由記述の内容についてスタッフ定例会で共有し、運営に役立てている。
- ・利用者アンケート(H30年12月:来館者200名)を実施し、結果についてスタッフ間で共有し運営に活かしている。

4. 親育ち子育ての場

- ・親同士が、子ども同士の関係づくりを見守る意識を持てるような声かけを行い、他の親やスタッフ等の関わりや子育ての講座を通して、子どもへの対応を学べる機会を作った。
- ・必要に応じてひろば内でスタッフが寄り添い、見本となったり助言することで、親が子育てに自信や喜びを持てるという声が聞かれた。
- ・同じ悩みを持つ親同士が互いに情報交換・共有できるように、スタッフが仲介をした。特に多くの親が悩んでいる内容については講座を行い、解決に導く工夫をした。
- ・子どもの年齢や親の状況に合わせた企画を行うことで、親育ちの場、子どもの育ちあう場になった。
- ・砂場あそびと、出張の公園あそびを通じて、遊び方を互いに学んだり、スタッフの助言により安全に遊ぶ工夫ができ、初めて公園に出る親子も安心して参加できた。拠点を利用していなかった親子が公園あそび参加後に拠点を訪れるきっかけとなった。

評価の理由(区)

- ・より区民ニーズにあった内容となる様、既存及び新規事業については、目的・内容・評価について精査し、また、実施結果についての振り返りを定例会内で行うよう心がけている。
- ・育児不安の強いケースについては、拠点に同行する等利用に繋げるため支援をしている。必要に応じて、相談連絡票を用いる等、切れ目のない関わりをしている。
- ・事業の見直し、また、内容の発展を目指して、把握した子育て中の親子のニーズ等を拠点と共有している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・初利用者向けイベントを開催することで、「安心して来館できた」という声が聞かれた。来館の良いきっかけとなっていて、安心感から継続利用につながっている。
- ・プレママ・プレパパが参加する沐浴体験で、出産後に赤ちゃんとともにゲスト参加を促す企画を盛り込んだことで、実際に出産後早期の利用につながり、継続利用もみられた。また、出産前にふれあいの時間を作ることで、出産後の拠点利用のイメージが持て、親育ちの場にもなっている。

(課題)

- ・安心して子育てに臨めるよう、妊娠期から拠点の利用をうながす工夫が引き続き必要である。
- ・自宅から遠いなどの理由で、拠点利用につながりにくい地域があるため、引き続き幅広い居場所提供が求められている。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区子ども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区は拠点の相談対応者が的確な対応ができるように、拠点での個別相談内容をより丁寧に聞き取るように努める。 ・利用者支援事業と連携して、拠点内で継続的な学び合いができるよう促していく。 ・相談事業の実施について、拠点内の掲示等で広く利用者に周知していく。 	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

・H30年度利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)
 問:スタッフに相談できる事を知っていますか?⇒知っている91%(拠点実施) (H27年度拠点実施:知っている67%)
 問:子育ての相談をしやすい雰囲気ですか?⇒そう思う 89%(拠点実施) 61%(区実施)
 そう思わない 1%(拠点実施) 3%(区実施)

・相談件数

	スタッフ相談			赤ちゃん相談 (助産師)	保育教育 コンサルジュ相談
	相談人数	相談件数	相談の多い項目		
H28年度	1,405	1,521	子どもの生活:36% 就園・就学:12% 子どもの健康:15%	62	83
H29年度	1,253	1,516	子どもの生活:36% 就園・就学:16% 子どもの健康:12%	55	94
H30年度	1,273	1,517	子どもの生活:42% 就園・就学:16% 子どもの健康:12%	60	101

1. 安心して相談ができる場の工夫

- ・広場での様子を見守り、日常の会話から、今困っていることなどが、気軽に相談できるような関わりを心掛けている。
- ・相談は傾聴・受容・共感を基本に、一人一人に寄り添う対応を心がけ、信頼関係を築いている。
- ・同じ悩みをもつ養育者同士で話し合えるように、スタッフが仲介した。
- ・プライバシーにも配慮し安心して相談できる場があることを伝え、個室での相談も行った。
- ・安心してゆっくりと相談ができるように必要に応じて子どもを他のスタッフが見守るなどの配慮をした。
- ・食事についてやおむつはずれなど相談の多い内容については、講座を行うことで、一度に多くの方に聞いてもらうことができた。
- ・毎日の反省会やスタッフ定例会で、相談の対応について報告・共有し、スタッフが誰でも相談を受けられる体制を構築している。
- ・スーパーバイザーによるスタッフ研修を行い、相談の対応についてアドバイスを受け、スキルアップを図っている。
- ・必要に応じて相談内容や親子の様子を記録に残しスタッフ間で共有することで、次回以降にも適切な対応ができるように心掛けている。

2. 適切なつなぎとフォロー

- ・相談のニーズに対応するため、専門相談(公認心理師・助産師・保育士等)につなぎ、他機関の情報提供をしている。
- ・必要に応じて、子育てパートナーと情報共有し、区や関連機関につないでいる。その後も、継続的に寄り添い見守っている。
- ・相談後の経過について把握が必要な利用者の相談内容を記録し、スタッフ定例会等で共有している。

評価の理由(区)

- ・区との定例会などでひろば相談の様子や相談内容について共有・振り返りを行い、必要時助言を行った。
- ・相談体制について養育者が相談しやすいか等の状況確認を定例会にて行い、ひろばスタッフのスキルアップや体制づくりに向けて拠点と検討した。
- ・専門的な対応が必要な利用者に対して、個別の相談や対応の助言、担当者へ引継ぎをした。
- ・拠点スタッフが安心して相談を受けられるように、スタッフ定例会の機会を活用し振り返りを行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・拠点で相談ができる事について認知度が上がった。
- ・身近な相談に丁寧に対応する積み重ねが、育児支援につながっている。
- ・スーパーバイザーよりスタッフの相談の対応についてアドバイスを受け、スキルアップにつながった。
- ・講座等を通じて、悩みや不安が軽減されるだけでなく、利用者同士が共感したり、話せるきっかけにもなった。

(課題)

- ・スタッフ定例会等で相談内容について検討していき、日々の対応にさらに活かせるよう、スタッフ同士が学び合う事が必要である。

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・拠点に来ることが難しい親子へも情報が届くような発信方法を検討していく必要がある。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	・拠点が情報収集・発信の場でもあることについて、更に認知度を高めていくために、周知の方法を見直す。	B	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。	・こうなんまっぷっぷを、より使いやすく見やすいものにする。また拠点ホームページの更なる充実を図るなど、区民に対する子育て情報の発信方法と内容について改善していく。	A	A
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>・H30年度利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)</p> <p>問:はっちの情報コーナーで子育てに関する情報を得ることができましたか? そう思う91% 思わない1%(拠点実施)</p> <p>問:はっちのひろば内掲示、ホームページ、広報誌は子育てに関する情報が充実していると思いますか? そう思う70% 思わない2%(区実施)</p> <p>・はっちからのラブレター(※拠点の通信)の設置場所:区役所、地域ケアプラザ、地区センター、コミュニティハウス、図書館、小児科・産婦人科医院や病院、百貨店・スーパー、地域のひろばサロンなど(82か所)</p>			
<p>1. 子育て情報の集約と提供</p> <p>・養育者が必要としている情報(感染症予防・防災情報など)を、「はっちからのラブレター」に新たに載せ、さらに多くの施設等でも入手できるように配架してもらえよう依頼した。</p> <p>・情報コーナーは、区内外に分けたりカテゴリ分けをした掲示をし、利用者が見やすく、必要な情報をすぐに手に入れられる工夫をした。</p> <p>・常時、情報コーナーの整理を行い、どのような情報があるのかを把握し、利用者の希望に応じ提供できるようにした。</p> <p>・拠点に来られない方のために、区の広報や拠点のホームページを通じて、情報が得られるようにした。</p> <p>・拠点の機能だけでなく、親と子のつどいの広場や港南区親子の居場所、区の相談事業についてまとめたミニチラシを作成した。複数の配布物が簡素化され情報の整理がしやすくなった。ポケットサイズのため保管や持ち運びが便利になった。</p> <p>・幼稚園・保育園についての情報提供の要望が多いため、幼稚園や保育教育コンシェルジュの協力を得て、入園前に知りたい情報を聞くことができる講座を実施し、多くの利用者に情報提供できた。</p>			
<p>2. 区民への周知</p> <p>・区の協力を得て、母子手帳交付時やこんにちは赤ちゃん訪問時に拠点についての情報を提供した。</p> <p>・両親教室や赤ちゃん教室、1歳6か月健診に出向き、拠点の機能について周知を行った。</p> <p>・こうなんこどもゆめワールド(※)に参加し、拠点の機能のPRを行った。</p> <p>(※実行委員会主催で年1回開催。区内全域より参加がある子ども向けのイベント)</p> <p>・孫育て講座やはっち祭の周知に関して、新聞折り込み等の地域情報誌を活用し、普段拠点の情報が目に届きにくい年齢層にも届くよう周知した。</p> <p>・子育て情報お役立ちファイルにまとめ、区役所、地域ケアプラザ等の公共施設や地域のひろばサロン等に設置し、情報提供した。</p>			
<p>3. 養育者や担い手の関わり</p> <p>・子育て支援関係者、幼稚園、地域の子育てサークル等から依頼を受け、チラシ等を掲示・配布した。</p> <p>・拠点が企画・編集の中心となり、ママリポーターと協働して、子育てガイドブックを作成した。</p> <p>・子育て支援関連団体から情報を得て、子育て情報カレンダー及び港南区子育て連絡会加入MAP(平成31年3月~)を作成し、拠点のホームページで公開した。</p> <p>・利用者同士の情報交換のツールとして、つぶやきボード(H31年4月~)をひろばに設置した。</p>			
評価の理由(区)			
<p>・情報集約の方法について拠点と相談をし、集約や提供などのルートの構築について助言をした。</p> <p>・養育者や担い手が必要としている地域情報の収集や提供方法について検討及び協力をした。</p> <p>・「はっちからのラブレター」の記事内容について、助言した。</p>			

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・拠点の機能及び親と子のつどいの広場や親子の居場所、区の相談事業の情報を1枚にまとめたミニチラシを作成した。今まで事業ごとに別々のチラシを配布していたが、情報をまとめたことで、伝える側も受け取る側もわかりやすくなった。
- ・現在子育て中であるママリポーターの協力のもと、子育てガイドブックを作成した。現地に赴き収集した情報をもとに、掲載内容や構成等を一緒に考えたことで、養育者目線の情報誌にすることができた。

(課題)

- ・多くの養育者がスマートフォンを使用する中、拠点のホームページがスマートフォン対応になっていないため改善が必要である。
- ・拠点の居場所以外の機能も知ってもらえるよう、更なる周知方法の検討が必要である。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	<ul style="list-style-type: none"> 各幼稚園に子育て連絡会の活動への理解を深めてもらい、会員または賛助会員として誘致していく。 拠点の中でボランティアとして子育て支援に関わっている人を、身近な地域の活動へつないでいく。 	A	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の各団体と、互いの強みを活かした取り組みを検討するなど、より密な連携、ネットワークの推進をし、地域とのつながりを深めていく。 	A	A
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>【H30年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 港南区子育て連絡会:全体会(年4回・延べ147名参加)・推進委員会(年6回:推進委員24名)の開催 港南区子育て連絡会会員数:50団体 賛助会員数:19団体 子育て支援関係者の拠点来館数:延べ885名 はっち祭:来場者数1,051名、参加協力団体数17団体 百貨店での出張はっち数(年3回) 港南区子育て連絡会と共催の研修会(年1回:33名参加)『まち保育のススメ』地域で子どもを育てる(講師:横浜市立大学三輪律江氏) 子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会(年1回:4団体4名参加) <hr/> <p>1. 地域の子育て支援活動のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育ての居場所「あっぷっぷ」と合同の定例会を隔月(年6回)で行い、うち3回は親子のつどいの広場とも合同で行い、互いの活動についてや利用の親子の支援についての情報共有を行った。 港南区子育て連絡会(※1)では事務を担い、連絡会の各種会議の準備や会員間の連絡調整等を行い、会の活動が円滑に行えるようにサポートしている。 (※1)港南区子育て連絡会は、幼稚園・保育園・民生委員児童委員・主任児童委員・子育て支援のNPO・行政など、50団体のネットワークで「子育てにやさしいまち港南区」を目指して活動している。 子育て支援関係者が連絡会の会員としてともに活動できるように、働きかけを行った。 港南区子育て連絡会と共催で子育て支援関係者向けの研修会を行った。 子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会を開催し、日頃の困りごとなどを共有できる場を設け、情報交換を行った。 <p>2. 拠点利用者を地域へつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> 港南スポーツセンターの協力で開催したはっち祭(※2)では、居場所や親子のつどいの広場、市立保育園のほか、地域の町内会のシニア部や区民活動グループに催事の協力を依頼し、参加につながった。はっち祭に来場した方々に協力団体を知ってもらいきっかけとなり、親子との交流の場となった。 (※2)港南スポーツセンターまつりと共催で行っている乳幼児向けのお祭り。H30年は8回目。 「あそびにおいてよこどもフェスティバル春、秋、冬(※3)」では、実行委員会から出席し、コーナー参加した。拠点利用者へのイベントの周知や、地域につなげる橋渡しの役割をした。 (※3)区内を3エリアに分け実行委員会主催で開催される乳幼児向けのイベント) 親子のつどいの広場や地域ケアプラザ、子育てサークルに周知や参加の協力を得て、出張はっちを行った。 子育て情報カレンダーの作成にあたり、子育て支援関係者と頻りにやりとりし、一目で色々な居場所の情報が見られるようになったことで拠点利用者を地域につなげる役割を担った。 <p>3. 近隣企業の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 百貨店の協力を得て、店内で出張はっちを開催し、普段拠点を利用しない方にも拠点機能を提供できるようにした。 			
評価の理由(区)			
<ul style="list-style-type: none"> 合同定例会の場を活用し、拠点と「親子の居場所」「つどいの広場」のあり方について、共に振り返る有効な場となるよう努めた。 拠点と地域の子育てひろば・サロンを運営する方々との交流開催に向け助言や協力をした。 身近な地域の情報をより養育者に届けられるよう、エリア毎の子育て情報の収集や提供方法について、拠点とともに検討した。 			

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・出張はっちを行う際に、親と子のつどいの広場や地域ケアプラザ、子育てサークルの協力を得て開催した。当日参加した拠点スタッフと協力団体等の方々と顔の見える関係ができ、拠点利用者を地域につなげる際の強みとなっている。
- ・子育て情報カレンダーの作成をとおして、子育て支援関係者と顔の見える関係作りに発展している。

(課題)

- ・子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会の開催にあたり、多くの方に参加してもらうために、内容についての検討が必要である。
- ・今年度より「あそびにおいてよこどもフェスティバル春・秋・冬」が開催されなくなったため、フェスティバルに参加していた保育園とのつながる場がなくなった。別の方法で連携をとる工夫が必要である。
- ・地域それぞれが抱えている子育ての現状把握を、子育て連絡会内でより共有していく必要がある。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。
- イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・区内全域で、より子育てを温かく見守る風土づくりを目指していく。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

- ・はっちサポート隊の活動(H30年度)
ちくちくタイム(手芸)8回延べ50名参加(うち地域ボランティア延べ10名) おりがみ2回延べ13名参加 座談会1回4名参加
- ・はっちボランティア(H30年度)
登録数31名(内訳:地域20名、大学5名、専門学校1名、高校3名、中学2名) うち新規登録7名
活動数:地域ボランティア延べ74回・学生ボランティア延べ11回(大学生2回・中学生9回)
- ・夏休み中学生1dayボランティア体験(H30年度:8/1~25の間)参加数10名・延べ12回
- ・港南区子育て連絡会と共催の研修会(年1回:33名参加)『まち保育のススメ』地域で子どもを育てる(講師:横浜市立大学三輪律江氏)【前述:ネットワーク】
- ・子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会(年1回:4団体4名参加)【前述:ネットワーク】
- ・子育てグループ交流会(年1回)H30年度参加団体5団体、参加人数12組/26名
- ・子育てを支援する方向けの研修会(年1回)
- ・近隣小学校の拠点での学習「吉原小学校6年生と親子のふれあい授業」(年1回:H30年度は3クラス113名・実施7年目)
- ・妊娠期から参加できる講座
H30年度まで沐浴体験:年6回(参加数:12組程度/回)・プレママ対象の講座:年2回(参加数:5~7名/回)を開催
R1年度より毎月第3土曜日に「プレママ・プレパパうえるかむでい」を開催
[R1年7月現在]沐浴体験2回(参加数:12組程度/回)、背守り刺繍:1回(参加数:3組)、体を動かそう:1回(参加数:2組)

1. 地域の担い手を支える

- ・子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会を行い、日頃の困りごとなどを話せる場を設け、情報共有を行った。
- ・子育てを支援する方向けに、港南区子育て連絡会と共催で子育て支援に役立つ内容の研修会を行った。
- ・孫育て講座を実施し、祖父母世代に今と昔の子育ての違いについて理解を深める場を作った。
- ・地域の担い手からの要望で地域に出向き、遊びの提供や情報共有したことで、担い手は活動のヒント等を得られ、活動意欲の向上につながった。

2. 地域の子育て支援活動への参加

- ・はっちサポート隊(ちくちくタイム・工作など)の活動や、はっちママのおしゃべりタイムで先輩ママとして話をするなどのボランティア活動を通して、達成感が得られたり、子育てに自信が持てるようになった。過去に活動に参加していた養育者が拠点のスタッフとして活躍している。
- ・子育てガイドブックの作成にあたり、ママリポーターが現地へ赴き、情報収集してもらったことで、養育者が地域に関心を持てるようになった。
- ・幼稚園・保育園児がいる母親に、入園時期にちょこっとボランティアをしてもらうことで、入園を希望している母親の良きアドバイザーになった。
- ・母親の利用者を通じて働きかけを行うことで、父親が自然とパパボランティアとして参加できるようになった。
- ・パパボランティアの中には、拠点での活動だけでなく、地域や市域でのパパ講座を担当するなど、活動の幅を広げている。

3. 子育て家庭を見守る地域全体での雰囲気づくり

- ・ボランティアが活動を重ねていくことで、子育て家庭への関心が強くなり、活動の幅を広げていった。
- ・地域の町内会や区民活動グループが拠点との交流を通して、子育て家庭を理解し、温かく見守れる雰囲気づくりができた。
- ・近隣の連合町内会の会議に参加し、子育ての現状や地域で見守ることの大切さを伝えた。

4. 次世代の育成

- ・小学生になった利用者が、自主的にひろばで絵本の読み聞かせや、ダンスを踊る際の手本となってくれた。
- ・近隣の小学校の6年生全クラスを拠点に迎え、赤ちゃんふれあい授業を実施した。親子とのふれあいを通して、子育てや養育者の気持ちを学べる授業を行った。
- ・夏休み中学生1dayボランティア体験の実施に向け、区内全校に周知をし、活動希望者を受け入れた。
- ・中学生の職業体験や大学生の実習を受け入れ、ひろばでの親子とのふれあいから子育てについての理解を深めてもらった。
- ・妊娠期から参加できる講座を第3土曜日に開催。パートナーと参加しやすくなり、子育て家庭と交流できる場となった。

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ・地域の子育てひろば・サロン等の地域の子育て支援者との連携やスキルアップのための交流会・勉強会のあり方について共に検討した。
- ・区内の子育てサークル活動支援のあり方を拠点と共に検討し、既存のサークル活動が継続できるよう支援したり、新規立ち上げを目指して支援した。
- ・拠点で実施する企画内容の検討、周知、地域への協力依頼を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・子育てひろば・サロンを運営する方々の交流会では、日頃の活動の様子を共有したり、困りごとなどを話せる場になった。情報の共有から活動のヒントを持ち帰り、運営に役立てられたという声も聞けるようになっている。
- ・妊娠期から参加できる講座を土曜日に開催することで、パートナーと参加しやすくなった。また、子育て家庭や乳幼児と交流できる機会を設けたことで、育児と拠点利用のイメージを持たせた。

(課題)

- ・中学生のボランティア体験では、近隣の中学校からの参加に限られている。中学生に限らず、幅広く参加してもらえる工夫が必要である。
- ・拠点に近い地域については、子育て家庭を見守る雰囲気づくりを進められている。今後は、更に地域を広げていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・情報を共有したケースについて、継続して進捗状況を把握していく。 ・区職員が区民に対し、子育てサポートシステムを紹介した際に、必要なケースについては拠点へ引き継ぎを行う。	A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ) H24年10月移管

・H30年度利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)

問:子育てサポートシステムを知っていますか⇒知っている81%(拠点実施)、74%(区実施)

・会員数推移、入会説明会実施数、活動件数

	全会員数 (人)	会員数内訳(人)			入会説明会 (回数/参加人数)								活動件数 (件)		
		利用会員	提供会員	両方会員	集団			個別							
					拠点内 [平日]	拠点内 [土曜]	出張	拠点内	出張						
H28年度	603	470	100	33	11	97	14	111	15	38	12	12	1	1	1,912
H30年度	705	558	113	34	13	66	16	178	21	48	17	18	10	11	2,318

1 周知の活動

・提供会員拡大に向け、区内約25か所(区民利用施設、医療機関、商業施設等)で広く周知した。

・地域のイベント、拠点の事業、中学校入学式の機会を活用して、保護者に向けて提供会員を増やすための事業周知を行った。

・妊娠期から子育てサポートシステムを知ってもらうため、拠点事業の「はじめての沐浴体験」後に入会説明会を行った。

・放課後キッズ、学童、新築マンションのモデルルームに配架した。

2 養育者のニーズへの対応

・入会説明会に参加しやすいよう平日と土曜日(合わせて月2回程度)に開催した。

・養育者の事情などで来所が難しい場合には自宅へ出張し、説明を行った。(H30年度 10件)

・初めて子どもを預ける不安を軽減するため、「1コインお試し預かり」を拠点のひろばで実施し、そのうち47%が次の利用にもつなげた。

・「リフレッシュ利用促進講座(年間2回・無料)」を実施し、利用会員がリフレッシュのために利用するイメージをもつことができた。

・利用会員のニーズに応じて、隣接区等への登録・利用を案内した。

3 活動継続中の会員へのフォロー

・利用会員には依頼時に丁寧に聞き取りを行い、不安や疑問を取り除いている。

・事前打合せには同席することを基本とし、活動がスムーズにできるように配慮した。

・毎月の活動報告書で活動状況を把握し、活動の相違や困り感を感じた場合は、その都度提供会員と利用会員に連絡を取り、双方が安心して活動できるようにフォローした。

・提供・両方会員向けの講座・交流会を開催し、日頃のサポートの様子を聞き、安心して活動を継続できるようにした。

・「リフレッシュ利用促進講座」では、預かり経験の少ない提供会員にも、安心して活動してもらえた。

・事前打合せ票(個人情報)を保管する専用ファイルをお渡しし、適正に取り扱うように依頼している。

4 養育者の立場に立った情報提供

・マッチングができなかった場合、必要に応じて区内子育て資源や、民間サービスなどの情報提供をした。

・子育てサポートシステムの対象とならない方の相談については、必要な情報提供ができるように子育てパートナーへつなげた。

評価の理由(区)

・提供会員数を増やすことを目指し、募集のちらしを多くの区民が目にする区役所1階の広報ラックへ配架できるよう調整した。

・乳幼児健診、訪問などあらゆる機会を通じて、事業の周知を行っている。

・定例会の場を活用し、事業がより発展するよう検討を重ねている。

・定例会の場で、個別に支援が必要と思われる利用会員の情報共有を行った。その後地区担当保健師に返すことで、タイムリーな子育て支援を展開できた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・さまざまな周知の工夫と、柔軟な個別対応を行ったことで、新規・継続利用につながった。
- ・養育者ニーズに応じ、馴染みのある拠点での預りを行った結果、子育てサポートシステム利用のきっかけづくりにつながった。
- ・専門的な対応が必要だと思われる方については、タイムリーに区へ報告することで、必要な支援につながられた。

(課題)

- ・多様化している保護者のニーズに対応できるようにさらに検討していく必要がある。
- ・利用会員を適切な支援につなげるため、さらに丁寧なニーズを把握していく必要がある。
- ・提供・両方会員数拡大に向けて、新たに小学校高学年保護者向けに配布するための工夫が必要である。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	A	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	A	A
評価の理由(法人)		
<p>(主なデータ)</p> <p>【横浜子育てパートナー認知度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度利用者(拠点実施)・乳幼児健診(区実施)アンケート <p>横浜子育てパートナー認知度(知っている) (拠点実施)56% (区実施)27%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らないと回答:(拠点実施)H30年度 37% H29年度41% <p>【区民への周知活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内関連施設:48か所 ・連絡会、定例会:年9回 <p>【相談件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度 274件 (親自身29%・子どもの発育18%・就園・就学13%) ・H29年度 322件 (親自身19%・子どもの発育18%・就園・就学18%) ・H30年度 414件 (就園・就学21%・親自身20%・子どもの発育16%) <p>【出張相談場所】</p> <p>地域ケアプラザ、親子のつどいの広場、公園、お祭り、おもちゃ文庫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度:12ヶ所 ・H30年度:22か所 (R1年度予定:26ヶ所) 		
<p>1. 区民への周知活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内の関連施設・乳幼児健診等や区の事業でチラシやPR品(相談専用電話番号を載せたマグネットバーや携帯用絆創膏ケース)を配布し周知活動を行った。 ・地域の子育て支援機関と連携できるように連絡会・定例会等に参加し、子育てパートナーの機能や役割を伝えた。 ・拠点の通信等に役割を掲載している。 <p>2. 養育者の主体性を尊重した相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続支援が必要な養育者は、ひろば内でスタッフと連携して、日常の変化を見守っている。 ・養育者に寄り添い、ニーズに適した支援やサービスの情報を提供している。養育者の選択を尊重し、その後も継続的に声掛けするなど、フォローしている。 ・専門的な相談が必要な養育者には、関係機関を紹介した。 ・外国人、双子、ひとり親等の繋がり作りを目的に当事者交流を行った。また、養育者のニーズに合った講座を実施した。 ・多様な相談に対応できるよう、子どもの発達・アレルギー講座等の研修会に参加し、スキルアップを図った。 <p>3. 地域の社会資源との関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の居場所に出向いたり、拠点事業の出張場所に同行することにより、拠点を利用していない親子の相談を受け、関係機関や気軽な相談としての支援につながった。 ・就園についての相談ニーズに応えるため、区内全ての幼稚園に出向いて情報を収集し、拠点で情報提供した。 ・「子育て情報お役立ちファイル」を作成し、区内の関連施設や子育てサロンに設置した。情報の更新の際には、施設の担当者や情報交換等を行っている。 		
評価の理由(区)		
<ul style="list-style-type: none"> ・周知及び事業の説明の機会として、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会や赤ちゃん教室等へつないだ。 ・相談内容や対応について、定例会の場で全件確認を行っている。また、地区担当保健師との役割分担や今後の方向性等具体的に伝えている。 ・関係機関や地域の社会資源との関係作りがスムーズに行えるよう協力をした。 		

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・多様な方法で周知したことで、拠点利用者への子育てパートナーの認知が進んできた。
- ・養育者との継続的な関わりのなかで、相談者の表情が和らぐなど、相談を通して安心する様子が見られる。
- ・関係機関との連携がスムーズに行えるようになり、一体的な見守りができるようになってきた。

(課題)

- ・さらに認知度を上げるため、拠点・区とともに周知を工夫していく必要がある。
- ・妊娠期からのアプローチについて、検討を進めていく必要がある。
- ・拠点を利用していない親子とつながるために、アウトリーチ方法を考えていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。